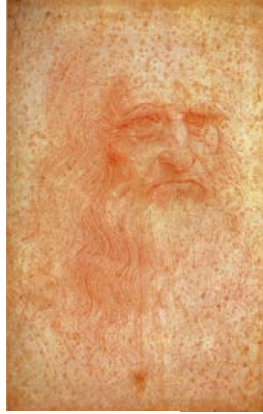


【③鑑賞対象－A：作家作品】

■「モナ・リザ」の変身



「モナ・リザ」



「自画像」



「ラ・ベル・フェロニエール」

レオナルド・ダ・ヴィンチの作品「モナ・リザ」はその神秘の微笑みと、絵を鑑賞する私たちを常に追いかけて見返す、揺れるまなざしで有名であるが、モデルには諸説入り乱れ、謎も多い。レオナルド・ダ・ヴィンチの「自画像」を、「モナ・リザ」と同じサイズにして重ねてみると、目・鼻・口の位置がぴったり重なるとの発見も伝えられた。

「モナ・リザ」にはレオナルドの理想のイメージが入り込み、昇華され、永遠性を獲得している。レオナルドによる実在の婦人像を描いた作品「ラ・ベル・フェロニエール」（ルーヴル美術館蔵）は「モナ・リザ」と同じような顔や体の向きの作品であるが、冷たく、堅い表情、険しい目つきの作品である。「モナ・リザ」のようにイメージが広がる物語性が感じられない。レオナルドは女性嫌いだったと言われるが、なるほどと思わせる表情だ。

「モナ・リザ」を元に有名な作家たちがパロディ作品を描いている。マルセル・デュシャン（1887～1968年）の作品「L.H.O.O.Q.」（1919年）は「モナ・リザ」そのものを作品に、子どもたちがすぐに落書きしそうな、鼻の下とあごに髭が描き足されている。

フェルナンド・ボテロ（1932～）の作品で、タイトルそのままの「モナ・リザ」（1977年）は丸々と太った様子で描かれている。

「モナ・リザ」と一緒にこのような作品も鑑賞すると楽しい授業になるだろう。

ほんまもとふみ  
（本間基史：東京都新宿区立落合第六小学校教諭）